

2002年3月、遠軽町で飲酒運転車両に衝突され、  
お亡くなりになった男性(56歳)の奥様が書かれた手記です。  
是非お読みになり、飲酒運転について今一度考えてみてください。

おとうさんへ

遠軽町 中嶋 良子

おとうさん、どうしてですか

げんきにしていますか？

最後となったあの日の夕食の時、子供の事を良く話していましたね。  
前の日、一緒に結婚式場に挨拶に行った娘は翌年結婚し、子供も二人になりました。  
気にかけていた息子もやっと可愛いお嫁さん进行い、女の子が生まれましたよ。  
子供たちが幸せに暮らしている姿を、おとうさんにも見せたかったな。  
おとうさんが手をかけていた庭木の剪定も、この頃少し出来るようになりました。  
一人での生活はほんとに大変だけれど、がんばっているのでほめてもらいたいです。

おとうさんだったらどうするか、おとうさんだったらなんて言うか。  
こんな時、おとうさんがいたら・・・そんな事を考えながら日々、  
暮らしています。

2002年3月18日の午後10時20分、勤務を終わろうとしていた  
その時、酒気帯び・時速180kmの車に追突されました。同乗の一人  
と共に一瞬のうちに命を奪われ、遺された家族もケガをされた同乗者も心に  
深い傷を負いました。

その傷は今でも癒えることはありません。

決して私たちは元の生活に戻ることはかなわないのです。

防ごうと思えばふせぐ事が出来たはずの事故。

あまりに無責任すぎる行いに悲しみと憤りを覚えるだけです。

この世から一つでも交通事故が減り安全な世の中になるよう、  
みんな一人ひとりが危険と隣り合わせだという事に早く気づいて  
ほしいのです。

事故で亡くなられたすべての人のご冥福をお祈りいたします。(妻)

※2011年1月10日発行 北海道交通事故被害者の会会報「第34号」抜粋

**飲酒運転は、自分の人生のほか、多くの方の人生を崩壊させます。**

**それでもまだ飲酒運転しますか？**